

## 地域志向性知的財産マネジメントについて ～ブランド商品開発検討会の取組～

○山岸 大輔\*<sup>1</sup>, 三須 幸一郎\*<sup>1</sup>, 清水 克彦\*<sup>1</sup>, 児玉基一朗\*<sup>2</sup>

(\* 1 鳥取大学産学・地域連携推進機構、\* 2 鳥取大学大学院連合農学研究科)

### 1. はじめに

全国において様々な地域ブランド商品を取り扱ったイベント、商品開発が行われている。地域のイメージや地域資源などを利用した地域ブランド商品は、商品がもつ発信力や購買意欲の向上が期待されている。また地域自体をブランド化し、観光客の誘致など地域活性化事業の中心的な取組となっている。より強いPR力を持った効果的な商品が求められる一方で、持続的に発展する可能性がある地域ブランド商品においては、まず当該地域において十分に受け入れられることも重要である。本事業では、このような地域性に着目した持続的に発展可能なブランド化と商品開発に対する知的財産マネジメントを検討している。商品開発に関して、昨年、鳥取市鹿野町において町おこしイベント等で活動している地域コミュニティ「あかり本願衆」と連携し、大学の学生も参加した地域ブランド商品開発プロジェクトを発足した(第6回産学連携学会関西・中四国支部において報告)。本プロジェクトの地域である鳥取市鹿野町は、鳥取市の西部に位置する人口4000人の町で、温泉や史跡などで、自然名勝に関して豊富な観光資源を有している観光地であり、当該地域には著名な桜、ハス、ソバ、ショウガ、地鶏及びジビエなど地域食材や植物がある(図1)。商品開発には、既存のブランドを利用し、地域資源から採取した天然酵母等の利用による新たなブランド価値の創出等を計画している。今回、本プロジェクトにおけるこれまでの取組み事例を紹介する。



図1 地域のブランド  
(幸盛寺の大イチョウ)

### 2. 取組内容

これまでの取組みにおいて、本プロジェクトに参加する学生には、当該地域を訪れた経験がない人もいたことから、鹿野町ブランドの再確認、既存の地域食材の調査を目的として、鹿野町ツアーを企画、実施した(図2)。当該ツアーでは、鹿野町の市街地を中心に街中観光ガイドに説明を依頼し、当該地域の歴史や由来などの説明を受けた。また、商品開発として、参加学生による鹿野町ブランド食材を使用した料理レシピの考案と調理、メンバーによる試食等を含めた商品検討会を実施した。なお、毎回参加者へは商品開発に向けたアンケートを実施している。

### 3. これまでの成果

ツアーを含む本検討会では、特に県外出身から本地域の魅力、地域住民の街並み保全への高い意識について関心が示された。地域食材の調査では、鳥取地鶏ピヨ、鹿野ソバ、ジビエ(イノシシ肉)などをそれぞれ調理し、試食会を行った。参加者からは、特にジビエの調理法に関して関心が示されていた。また、学生による新規メニュー開発では考案された13のレシピから、食材の調達等を考慮して、調理可能な6種類について実際に調理し、試食会を開催した。メンバーによる試食では、調理されたレシピは高い評価を得ていた。一方レシピに対する地域性(イメージ)については、よりわかり易くする工夫など今後の検討課題となった。引き続き、商品開発に向けた取組みを進めている。



図2 鹿野町ツアーの様子

#### 【謝辞】

本事業にご協力いただいている鳥取市鹿野町「あかり本願衆」の皆様には深く感謝いたします。